

1 目的

「福山駅前広場の変遷」や「福山駅周辺の取組」，「福山駅前広場の検討状況」などを説明した後に，現在の福山駅前広場の問題点について，市民や事業者の方々と一緒に考える。

2 内容

（1）ガイダンス

「福山駅前広場の変遷」や「福山駅周辺の現在の取組」について説明した後，福山駅前広場協議会や現在行っている市民アンケートなど，駅前広場の検討状況について，市から説明を行った。

（2）レクチャー

全国各地でプレイスメイキングの理念・手法を用いた実践・研究に取り組んでいる園田聡さんをお招きし，人々にとって居心地の良い場所をつくることにより，まちの価値を上げていく取組などをご紹介いただいた。現在の駅前広場の問題点について考える機会となった。

・ゲストスピーカー

園田 聡さん

（有限会社ハートビートプラン取締役/認定NPO法人日本都市計画家協会理事）

（3）パネルディスカッション

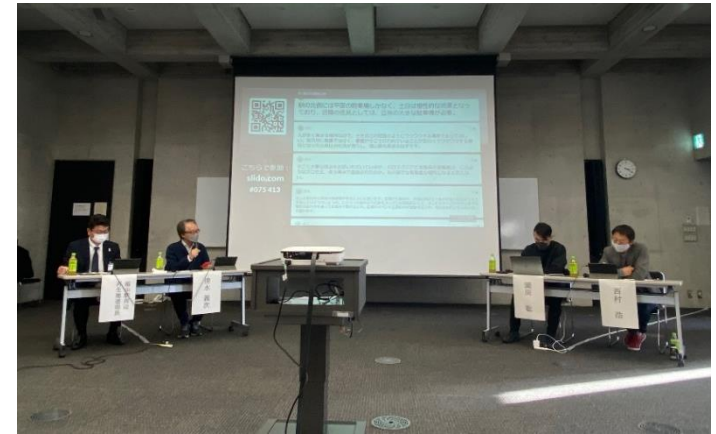
会場やオンラインで参加された方々からのご意見やご質問を基に，現在の駅前広場の問題点について意見交換を行った。

・ファシリテーター

清水 義次さん（福山駅前広場協議会座長）

・パネリスト

西村 浩さん（福山駅前広場協議会委員），園田 聡さん，福山市福山駅周辺再生推進部長



3 パネルディスカッションでの意見交換の内容（全40件の内、一部抜粋）

●駅前がどこにでもある風景なので残念。交通も大事だけど、駅前に福山らしく、ゆとりある人中心の空間が必要ではないか。

☞これまでは車が大事にされる時代だった。単純にそれが悪いと否定するのではなく、その価値観を持ちつつ、次の時代の価値観に合わせていくことが大事。まずは、みんなの共通のビジョンがあると良い。福山を訪れた人々に、最初に見てもらう風景はどのようなシーンがいいのかということ議論するべきだと思う。

●福山城があるのに、駅の南北で別々のような空間になっていることがもったいない。駅の南側から駅舎の中、駅の北側を一体の空間にしてはどうか。

☞私たちは基本的に境界を意識して歩いていないので、広場と周辺が一体に感じられるような空間にするべき。そのためには、JRなどの広場周辺の方たちとの連携が必要になるだろう。大事なことはどのような雰囲気を作っていくかということ。例えば、駅の協力が大事だが、そこで出店される方の感性や雰囲気も大事。空間を一体にすることと、その運営や事業をされる方を誰にするかということと同時に考えていくことが大事になる。福山の場合は、お城の中にいるような雰囲気の一体化を図っていくべき。お城の中に駅があるということを感じられるような整備や使い方を今後考えていく必要があるのではないか。

●昔は大きな商業施設で買い物をしたり、歩いたりしても楽しかったが今は廃墟のよう。駅前にできるのはマンションばかり。買い物は郊外のショッピングモールに行き、駅前には行かない。若者も楽しめる施設やイベント会場が必要。

☞多様性のある目的地が必要。ニーズは大型の店舗だけでなく小さな店舗にもあるだろう。もし、多くの方が日常的に駅を使っているのであれば、大きいイベントなどをしなくても、日常の動線の中に居心地の良い場所ができれば喜ばれると思う。動線ができていないのであれば、目的地を考えないといけない。マンションの投資が増えることは市場価値が上がっているということだから悪いことではない。しかし、低層部まで居住空間にしないようなルールづくりと、住んでもらいたい世代を誘導するようなまちの作り方を考える必要がある。まちの未来を考えると、小さい子どもからおじいちゃんまでがバランスよくいる町にならないといけない。高齢者ばかりだとその方々が亡くなると人がいなくなってしまう。マンションができたときに、小さい子どもやお母さんたちが住みたいという駅前になれるかがポイント。まさにこれがウォークアブルの話に繋がっていく。本当に安全で豊かに暮らせる駅前が作られていけば、マンションの世代間のバランスがうまくいって、駅前のこれからの未来がすごく安泰になっていく流れができると思う。

●駅前が人中心になると良いが、交通機能としての大規模駐車場も欲しい。財政が厳しいのかもしれないが、JRの計画は再浮上しないのか。

☞北口広場については、基本方針を定めており、送迎機能と玄関口機能が必要ということは変わっていない。民間や公共を含めて、駐車場機能というものは必要だと考えている。

●駅前の交通が複雑で市民でも分かりにくい。分かりやすい道路を計画して欲しい。

☞駅前とはとにかく色々な交通が集中する場所。福山駅は間口が狭いため、タクシーやバス、一般車が集中して、交差点が複雑になっている。このような場合は、正面からアプローチするだけでなく、サイドや地下からアプローチしていかないと、複雑な交差点を解消できない。交通の整理と同時にウォークアブルな空間を生み出していく工夫をすることが大事になる。

●色々の活動が行われていることで変化を感じることができる、ワクワクするような場所になれば、毎日の生活が潤い、福山愛も高まるはず。

☞変化する場所は、楽しいと感じることができる場所だ。例えば、季節によってまちの人の過ごし方が変わるといような変化があると良い。変化が許容されるためには、色々のことができるような運営・管理の仕組みが必要。行政に全て任せると基本的には同じようなルールになってしまうので、市民や事業者が責任を持って運営・管理を行い、風景が変わるワクワクする空間をつくっていくべき。何かをしたいという人がどんどん出てきて、その人たちが駅前広場に集まってきたら、恐らく、外から見た人は、とても楽しく感じて、ワクワクすると思う。どちらかという、何かを与えてもらうよりは、やりたい人が集まってやるというプロセスで考えていくと良いだろう。

●福山駅では時間を潰せない。気軽に座れるベンチや椅子が少なく、飲食店に入らないと落ちついてゆっくりできない。お金を払ってコーヒーを買ってでもいいので、オープンカフェのような感じでゆったり気にせず座って休憩できるスペースが必要です。

☞座る場所を提供する側のメリットにもなる状況が作れるとよい。例えば、お店のオープンテラスだったら、そこで売り上げが上がるので、お店の人がベンチなどを出し入れしてくれる。大事なことは、物の形や数を決める議論の前に、どういう仕組みで管理するかを考えること。例えば、どういう形のベンチにするのかという議論の前に、誰がベンチを設置して、誰が出し入れするのかを決めてから、ベンチの形や数を決めると良い。

●駅舎から南方向への視界が遮られている。駅に降り立った時、開けた空間ではなく、非常に狭苦しい印象がある。玄関口としてまちのイメージや魅力を低下させている気がする。

☞人の雰囲気分かることと、福山らしい魅力のある駅前にすることが大事になる。ただ、「福山らしさ」とは何かという議論になった時に、結局、らしさとは「人の活動」だったりする。魅力や福山らしさというのは、きっと物理的なものだけではないし、唯一無二である必要もない。

●使い方から考えるとある程度形になるまで時間がかかると思います。小さくてもいいので、暫定利用を繰り返しながら、形を作っていくって欲しい。

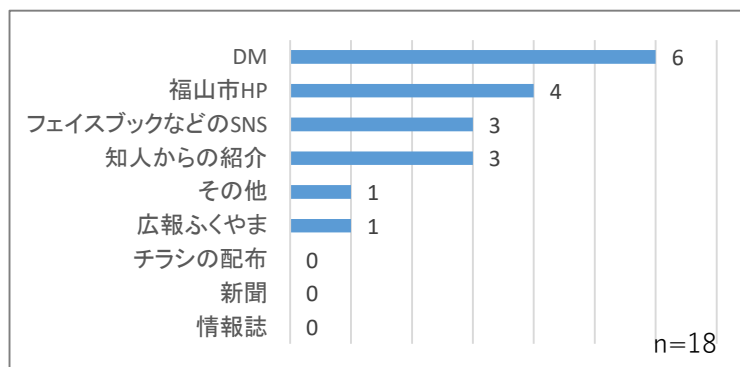
☞駅前話は時間がかかるが、時間をかける価値があると思う。小さくてもいいので暫定利用を繰り返していく考え方はすごく大事になる。現場でやってみて、実際に皆さんが体感して、気持ち良いと感じるかどうかが重要。合意形成というよりは実行しながら、それをみんなで検証して、次のより良い未来に向かってみんなで進むということ、話し合いながら進めていくことが大事。永遠に完全にこれで良いという終わりはない。

●地元のことなのに、市外からパネラーを呼び込む必要があるのか。福山市在住の専門家などの意見もあった方が良くと思います。

☞先進地の事例を参考にする必要はある。ただし、他の事例を真似るだけでは駄目で、他の事例を福山に落とし込む作業をしないとイケない。まずは、先進地の事例を紹介して、ともに学んで勉強して考えていくという段階だと考えている。その後、地元の人と一緒に取り組むことが必要だと思う。今後は、地元の専門の方にもパネラーとして参加していただくことを考えている。

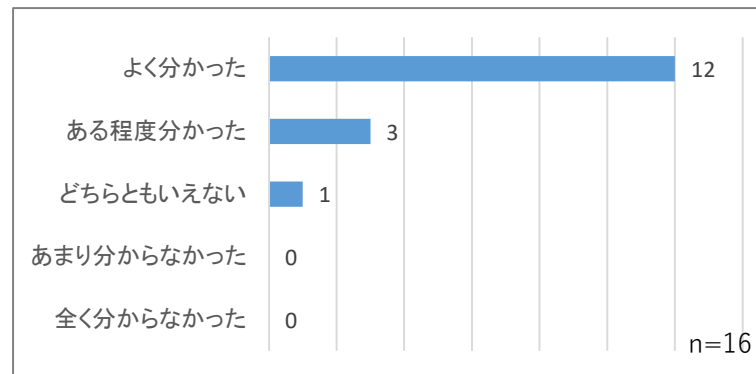
4 アンケート結果

Q1 どこで本シンポジウムを知りましたか。(複数回答)



※その他・・・大学の案内 1件/1件

Q2 現在、本市が行っている福山駅周辺の取組※について

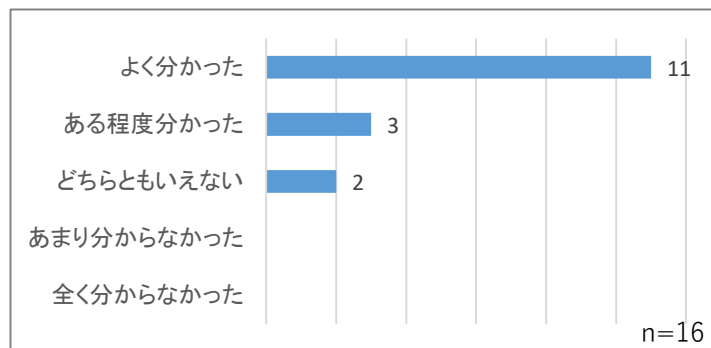


※福山市と備後圏域が持続的に発展していくために、その玄関口である福山駅前の再生に取り組んでいる。そして現在、駅周辺では「居心地が良く歩きたくなる」ような人中心の空間(ウォーカブルな空間)に変えていく取組を行っており、その取組の一環で駅前広場の検討を進めていること。

(Q2) 初めて知ったことや興味を持ったこと、感じたことなど(自由記入)

- 中央公園にガーデンレストランが出来たプロセスが分かりました。

Q3 めざす福山駅前広場の方向性*について

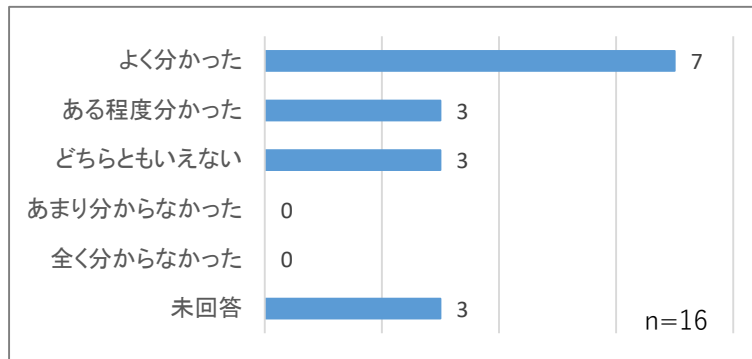


※交通結節機能を確保しながら、駅周辺と一体となったウォーカブルな駅前広場をめざすことや、市民一人一人が愛着と誇りを持てる駅前広場をめざすこと。

(Q3) 初めて知ったことや興味を持ったこと、感じたことなど(自由記入)

- 多様性やユニバーサルデザインの考え方が重要だと思った。
- 市民の方々が福山駅前広場についてどのように考えているのかがよく理解できた。
- 楽しく歩ける、過ごせる場をつくろうとしていることは分かりました。

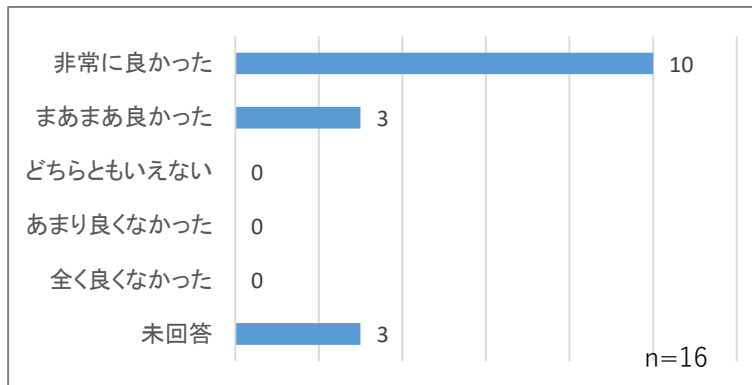
Q4 これからの公共空間（道路、広場、公園など）の使い方の方向性について



(Q4) 興味をもったことや感じたこと、公共空間をどのように使いたいかなど（自由記入）

- レクチャーの話が、今後の進め方に参考にすべきことが多いと思いました。
- 官民の境がないくらい多くの使い方の意見が出ると良いですね。

Q5 駅前広場の検討にあたっては、議論の内容を積極的に発信するとともに、今回のようなシンポジウムなどでみなさまのご意見をしっかりと聞き取りながら検討していきたいと考えています。この度のパネルディスカッションでの意見や質問の聞き方についてどう感じましたか？



(Q5) ご意見やご提案など（自由記入）

- ダイレクトに聞けるシステム（slido）は良いと思います。質問ですが、パネリストさんへは外部ですので、行政にダイレクトに聞きたい方々もいらっしゃると思います。最終決定は行政と分かっているから。
- 質問を取り上げていただきありがとうございます。
- パネリストの回答（合意形成する範囲をあらかじめ決める、気持ちよく運用されていること）が非常に参考になりました。
- Slidoは質問が出やすいみたいで、色々な声をきけておもしろいです。

Q6 本シンポジウムに参加して、印象に残ったことや感じたことは何ですか。（自由記入）

- 最後にパネリストの方がおっしゃっていた、行動する、実験する、これが一番大事です。次に、「ではどこに依頼するのか」です。独占的なイメージにならないようになることが大事だと思います。
- ネットでの意見が言えるのは良かった。
- さまざまな意見やコメントが可視化され、傾向がわかったことが興味深かったです。
- ステークホルダーの選定や、やる気がある人、ワクワクさせたい人が街を創っていくという考え方がすごく素敵だと思いました。
- スケボーを駅前（釣人像周辺）でしている中高生に向けて、時間で区切って「スケボータイム」など作るのはいかがでしょうか。夜18時～20時まではスケボーのみ行うことができる空間を作る。周辺事業者にスケボータイムが終わったら割引をして中高生の購入を促進するなど。治安も良くなると思います。
- 「永遠に未完成」だから考え続けられるのかもしれない。「やってみてから考える」のも良いですね。
- 県外から来させていただきましたが、このようなシンポジウム、非常に大切なプロセスだと感じました。自分のまちでも参考にさせていただきます。

5 今後について

本シンポジウムなどにおける市民のみなさまからのご意見やご質問については、今後の福山駅前デザイン会議や福山駅前広場協議会の議論の参考として取扱います。

今後も引き続き、福山駅前広場デザインシンポジウムのような場を設けることによって、駅前広場の議論の経過を発信するとともに、多くの方々の意見を聴きながら、市民のみなさまが誇りに思えるような駅前広場を市民のみなさまと一緒に作り上げていきます。